

令和7年度 静岡県私立専修学校各種学校大会

令和8年2月20日(金) / 私学会館5階大ホール



<一般財団法人職業教育・キャリア教育財団理事長賞>

専門学校静岡電子情報カレッジ

ITゲーム&ロボットシステム学科 2年

蓬田 南 レティシア (名誉会長賞)

出井 陸斗 (会長賞)

曾田 伊菜穂 (職業教育・キャリア教育財団理事長賞)

音響&映像メディアクリエイイト学科

2年 池田 紗羽 (会長賞)

静岡福祉医療専門学校

視能訓練士学科3年

大石 朝陽 (名誉会長賞)

総合福祉学科3年

増田 菜々 (会長賞)

赤堀 りろ (職業教育・キャリア教育財団理事長賞)

子ども心理学科3年

横山 颯人 (職業教育・キャリア教育財団理事長賞)

< 研究論文 >

第一位

静岡福祉医療専門学校

子ども心理学科3年 伊藤 菜々美

第二位

専門学校静岡電子情報カレッジ

ITゲーム&ロボットシステム学科 2年 白鳥 元斗

佳作入賞

専門学校静岡電子情報カレッジ

ITゲーム&ロボットシステム学科 2年 山本 隆誠

『人と人とのつながりがもたらすもの』

静岡福祉医療専門学校
 子ども心理学科3年 伊藤 菜々美

私は専門学校に入学してから、地域の『子ども食堂』でボランティア活動に参加した。きっかけは、授業で地域福祉や子どもの貧困について学び、社会の中で様々な環境に置かれた子どもたちがいること、また、『子ども食堂』という場所があることを知ったことにある。ニュースやテレビCMで『子ども食堂』という言葉を目にしたことはあったが、授業を聞いてから「実際にどんな子どもたちが利用していて、どんな人が支えているのだろう」と気になり、自分の目で見てみたいという思いが強くなった。

『子ども食堂』は、子どもたちに食事を提供するだけでなく、地域の人々とつながる温かい場所だと知り、自分もその一員として関わってみたいと考えボランティア活動に参加した。

緊張しながら参加したボランティア初日は、料理の盛り付けや配膳、食後の片付けなどを任せられた。周りのスタッフの動きが速く、ついていくのがやっとだった。そんな中で印象に残っているのは、そこに来ている小学生の男の子たちが「ごはんおいしかった!」「あとで鬼ごっこしよう!」と笑顔で話しかけてくれたことである。その言葉に疲れが吹き飛び、「自分の関わりが誰かの笑顔につながっているんだ」と実感した。

活動を続けるうちに、『子ども食堂』が単なる“食事の場”ではないことに気づいた。そこには、家庭の事情で孤食になりがちな子ども、仕事で忙しい保護者、地域のお年寄りなど、さまざまな人が集まっていた。子どもたちはご飯を食べながら宿題をしたり、ボランティアの方と話をしたりと安心して過ごしていた。みんなが「ここに来れば誰かがいる」という安心感をもって過ごしている姿を見て、食堂の本当の目的は“人と人をつなぐ場所”をつくることだと感じた。例えば、保護者の中には「ここで誰かと話すと気持ちが楽になる」という人もいて、子ども食堂が子育ての悩みを共有できる場にもなっていた。地域の高齢者の方も子どもと関わることで生きがいを感じており、世代を超えて人と人がつながる場所になっていた。私は、そこに“地域のもう一つの家族”のような温かさを感じた。私自身も、参加を重ねる中で地域の人と顔見知りになり、会話を交わすことで地域の温かさを実感するようになった。

一方で、活動の難しさも感じた。食事を準備するスタッフが不足していたり、子ども同士のトラブルが起きることもあった。兄弟で来ていた子どもが喧嘩をして、泣いてしまった子どもにどう声をかければよいかわからず戸惑ったことがあった。先輩スタッフに「まずは話を聞いて、気持ちを受け止めてあげることが大事」と教えていただいた。その言葉をきっかけに、私は“相手の気持ちに寄り添う姿勢”を意識するようになった。まずは、お互いの話を聞いて受け止めた上で子どもたちの対応をすることで解決につなげることができた。活動を通して、人と関わる時に大切なのは「何かしてあげる」のではなく、「一緒に過ごし、思いを受け止めること」なのだと思ふことができた。

このボランティアを通して、私は自分の中にあつた固定概念が変わつたと感じている。以前は、“支援する側とされる側”という線を引いて考えていたが、『子ども食堂』での時間は、むしろ“みんなが支え合う関係”で成り立っていた。私も子どもたちから元気をもらい、地域の方から励ましの言葉をもらうことで、自分自身が支えられていたのである。そうした体験を通して、人と人とのつながりが生きる力を与えてくれることを実感することができた。

将来、私は子どもと関わる仕事に就きたいと考えている。子ども食堂での経験は、その夢を明確にしてくれた。子どもたちが安心して過ごせる居場所をつくるには、食事だけでなく、心の支えとなる人の存在が必要である。今後は、教育や福祉の分野で、子どもたちの成長を見守りながら、地域全体で支え合える仕組みづくりに関わっていきたく考える。

このボランティア活動を通して、私は「つながることの大切さ」と「人の温かさ」について身をもって感じた。人と人との関係は、誰かを助けたり励ましたりする中で育まれるものであり、その中で自分自身も成長していくのだと気づいた。子ども食堂では、子どもたちだけでなく、大人もお互いに支え合い、笑顔を分かち合っていた。その姿を見て、助け合うことの意味や、人と人とのつながりがもたらす力の大きさを改めて感じた。

これからも私は、人と人とのつながりを大切にしながら、身近な場でできることを続けていきたいと考えている。誰かの小さな「ありがとう」や笑顔を励みに、自分のできる行動を重ねていくことで、地域や周りの人に少しでも温かい影響を与えられるよう努力していきたい。そして、子どもたちの笑顔や「また来てね」「また一緒に遊ぼうね」という言葉を胸に、これからも人と人をつなぐ活動を続け、自分自身も成長していきたいと考えている。

このボランティア活動を通して、私は「つながることの大切さ」と「人の温かさ」について身をもって感じた。人と人との関係は、誰かを助けたり励ましたりする中で育まれるものであり、その中で自分自身も成長していくのだと気づいた。子ども食堂では、子どもたちだけでなく、大人もお互いに支え合い、笑顔を分かち合っていた。その姿を見て、助け合うことの意味や、人と人とのつながりがもたらす力の大きさを改めて感じた。

